

●第2回考査(9月28日～10月4日) 時間割発表

時間割発表 ★受験教室を確認する★ 考査に全力投球・完璧な準備 → 基礎基本の定着 → 実力アップ

	28日(金)		1日(月)			2日(火)		3日(水)			4日(木)		
	1	2	1	2	3	1	2	1	2	3	1	2	3
理型	古 典	世界 史B	英 語 表 現 Ⅱ	数学Ⅲ 数演1 90分		現 代 文	日本史 B 地理B	物 理 生 物	数 演 2	政 経 探 究 倫 理 ・ 政 経	コ ミ ュ ニ 英 Ⅲ	化 学	L H R
文型		世界 史探 究		数 学 演 習 B	日 本 史 探 究		生 物 演 習 A	数 学 演 習 A	地 学 演 習 化学演習				
国際 α					地 理 探 究		生 物 演 習 B		地 学 演 習				
国際 β		英 語 表 現			通 訳 演 習		第 二 外 国 語		英 語 演 習				

この時期になると、志望大学の過去問題や模擬試験の対策にばかり目がいき、肝心の学校の考査を軽視しがちな人が出てきますが、それは真の実力養成を阻害することです。範囲のしっかり定まった学校の考査で満点に近い点をたたき出して初めて入試に即応することができるのです。もし考査が簡単だというのなら、簡単なそのテストでしっかり高得点(完璧に近い点)を取ってからにしてください。難しい問題をやれば力がつくというものではありません。やたら難しい問題ばかりをやって「やった」気になっている人は、基礎的な部分にまだヌケモレがあるという自分の現実から目をそむけたがっていることが実は多いのです。

追いつめられた時こそ、基本に戻るのです。愚直な努力を笑ってはいけません。焦るなどはこういうことをいうのです。

また、受験科目でない科目に手を抜くことも恥ずかしいことです。皆さんの矜持、プライドのありようが、その取り組みに「透けて見える」のです。全てにおいて「品格」は大切です。

「品格」は「余裕」でもあります。目先にばかり目を奪われるのは、余裕のないことの証であり、「品格」を見失う恥ずべき行いなのです。そして、なぜだか「運」も遠のいていきます。

全ての教科に全力を尽くす。この当たり前のことを3年生全員でやりぬこう。

●秋の個別大学模試 申込締切 9月21日(金) …その意義を考えてみると

①個別大学模試は、二次試験に対応した模試です。問題は、赤本などでわかりますが、解答用紙の形式(例:一行の大きさなど)までは、なかなかわからないものです。個別大学模試は、過去の実際の二次試験の内容、形式に添って作られています。大学によって独自の書式がありますので、必ず一度進路指導室で、各個別大学模試の過去問題を手に取り解答用紙の実際を確認して臨んでください。

②「校外」で受験するという緊張の経験が、まずもって何より大切です。センター試験でさえ、舟入高校でまとまって受けることはありません。二次試験ともなれば、全国の受験生のなかに、ぼつねんと自分ひとりが舟入生となるのです。「他流試合」にこそ価値があるのです。本番を想定した「受験の雰囲気」に慣れ、メンタルを鍛えていくのです。

③「よい判定を出そう」と思うことなかれ。

個別大学模試には、1年間記述を中心に鍛えてきた既卒生が大半を占めます。このライバルは現時点では、皆さんには強敵です。それは当然です。したがって、上位の判定には既卒生がおり、多くの現役生には厳しい判定になります。そのことを覚悟しそれでも「受験」することが大切なのです。甲子園での勝利を目指すチームであれば、他県の1番手チームと練習試合を重ね、「甲子園」「全国」のレベルを体感し、結果を出していくのと同じ理屈です。悔しい思いこそが自分を奮起させるのです。「模試の受験の経験」こそが、今後の皆さんの学習の指針となり、教師となるのです。

●学期間休業中補習 (10月9日~12日) 申込締切 9月20日 (木) 朝

学期間休業の4日間、各教科がこの時期に最適と判断した補習を計画しています。自分の学習の進捗状況を考え、申込をしてください。申込をしたからには、最後まで受講することです。

●夏の学習時間 週学年平均 53.3時間 休み明け学習時間 38.6時間

●「やる」しかない今「やり続ける」ことを「信じる」しかない今

…「やる」(実行)に関する古今東西の名言集

①やればできるは魔法の合言葉…

今夏 話題になった済美高校の学園歌の一節

②為す者は常に成り、行く者は常に至る。(為者常成、行者常至。)

やり続ける者は成し遂げられ 進み続ける者は到達できる。『晏子春秋』(中国戦国時代の書)

③為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり

江戸時代米沢藩第9代藩主の上杉鷹山(ようざん)のことば
上記の『晏子春秋』を基にして作られたことばと言われる。

④よく言う者はあれど、よく為す者は少なし。

よく為す者はあれど、久しくする者はさらに少なし。

口であれこれ言う者はいても、その中で実行する者は少なく、
実行する者はいても、長く続ける者は少ない。

稲森和夫氏(京セラの創設者 JALの再建にも尽力した経営者)のことば